



年 頭 所 感

東 京 都 知 事
石 原 慎 太 郎

明けましておめでとうございます。

新しい年が皆様にとって健やかで希望に満ちた一年でありますよう心からお祈り申し上げます。

わが国は今、経済に本来の力強さが蘇りつつあるものの、流動化する国際情勢や本格的な少子高齢化・人口減少時代の到来を目前に控え、国家の根幹にかかわる設計図を抜本的に見直す必要に迫られているにも拘わらず、国の動きは鈍く、都民・国民の将来に対する不安は未だ払拭されていません。

現代は、大都市の活力が国の命運を左右する「都市の時代」であります。この国の未来をより確かなものとするため、引き続き東京が率先して行動を起こし、

東京再生ひいては日本再生の活路を切り拓いていきたいと決意を新たにしております。

そのため、昨年末に、行財政改革を加速させるための新たな指針を策定しました。本指針に基づき、「東京発自治論」を展開するとともに、「公」を多様な主体が担う仕組みを提起し、二十一世紀に相応しい行政システムを構築してまいります。

私は知事就任以来、日本のダイナモである東京の再生を目指して都政の新たな展開に取り組んできました。ディーゼル車排出ガス規制や認証保育所の設置、治安対策や教育改革、債券市場の創設などの「東京モデル」とも言える取組みは

様々な形で全国に波及し、新しい行政の形を広く社会に示すことができました。これからも、三環状道路などの都市インフラの整備はもとより、中小企業の競争力強化や福祉・保健医療施策の一体的な取組みを着実に進めるとともに、都民の安全を守る震災・災害対策や都市の環境再生など、直面する課題に積極的に取り組んでまいります。

また現在、2016年の五輪招致を目指し、新たな東京オリンピックのコンセプトを検討しているところです。オリンピックは都市に住み集う人々に高揚感をもたらすとともに、都市の姿を一変させる力を持っています。オリンピックを契機に、都市インフラの整備はもとより、自然環境の保全、都市景観の回復、治安の確保、観光や文化施策などを推進することは、二十一世紀に相応しい大都市東京の創造に大きく寄与することになると考えます。

東京の改革に終わりはありません。十年後、二十年後の東京ひいては日本の姿をしっかりと見据え、東京発の改革に全力で取り組んでまいります。

平成18年 元旦

